

I 人口の現状分析

1 人口動向の分析

- 総人口は、1960年をピーク（4,114人）に急激に減少し、1975年以降は緩やかに減少。2010年の国勢調査では411人
- 年少人口が極端に少なく、老年人口が多いという典型的な逆ピラミッド型の人口構造
- 総じて自然減、社会減が続いているが、近年は減少幅が小

2 将来人口の推計と分析

- 推計の結果、総人口は2020年には300人台前半、2030年には200人台、2050年には100人台の見込み（出生率及び移動率の仮定等による推計であり今後の対策の効果を加味しない場合）
- 総人口が少ないことから、自然増減、社会増減とも少ない増減数でも影響度が大きい

3 人口の変化が地域の将来に与える影響の分析・考察

- 人口の減少により、
 - ・ 集落の維持やコミュニティ機能の危機
 - ・ 地域を支える移動手段や生活物資の調達など生活に必要なサービスが提供されなくなる恐れ
 - ・ 村づくりへの住民意欲の低下 等が想定される

II 人口の将来展望

1 目指すべき将来の方向

基本的な考え方

村の存続のためには400人の人口を守ることが必要不可欠（自治体として400人程度の人がいなければ村づくりは成し得ない）

「村民一丸となって人口400人を守る」

目標：人口400人の維持

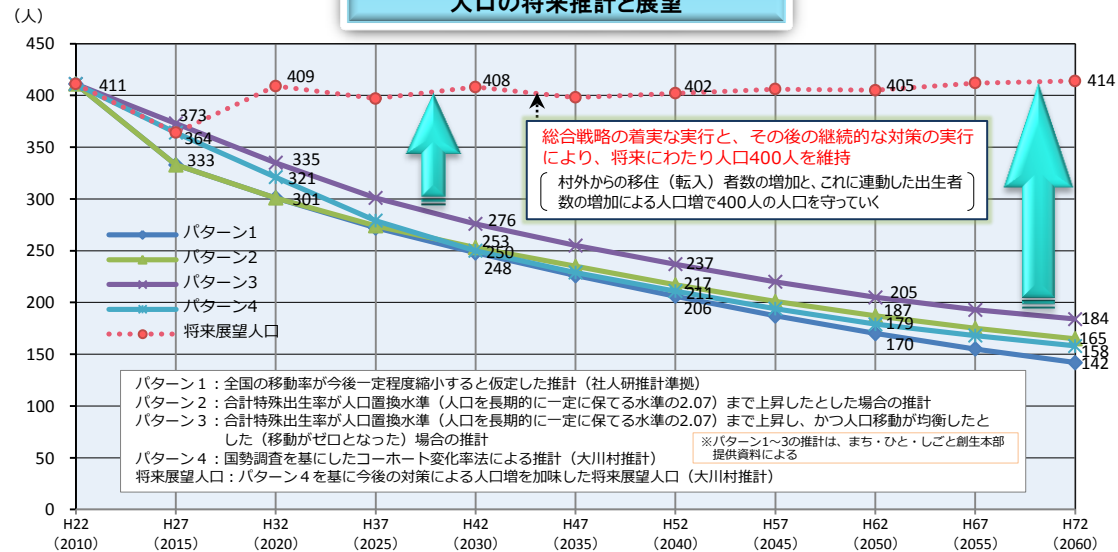
- 産業振興の積極的な展開（雇用・交流人口の拡大）による移住（転入）者数の増加（社会増）及びこれに連動した出生者数の増加（自然増）により人口400人の維持を目指す

2 人口の将来展望

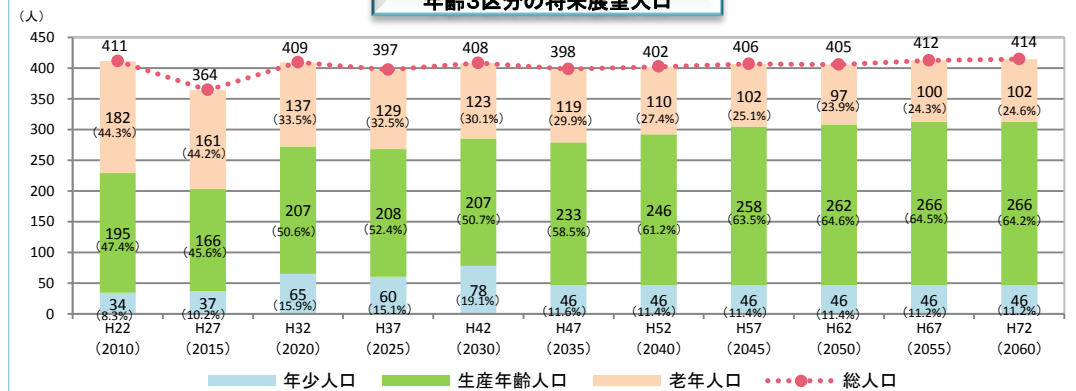
<人口ビジョンの対象期間：2015年～2060年>

- 総人口は、各種の対策を講じることにより、総合戦略終期（2020年）、振興計画終期（2022年）、人口ビジョン終期（2060年）のいずれにおいても**400人を維持**
- 2060年に「人口400人の維持」が実現すれば、人口構造が劇的に変化し、村の活性化につながる

人口の将来推計と展望



年齢3区分の将来展望人口



人口増に向けた対策のポイント

